



つながる、中央区。

熊本市中央区まちづくりビジョン
2013 - 2022

熊本市中央区

はじめに

平成24年4月1日政令指定都市熊本が誕生し、5つの区役所が設置されました。これまでまちづくりは市全体で考えられてきましたが、より身近な単位である区が設置されたことにより、「区の特性を活かしたまちづくり」ができるようになりました。これは、区役所と区民の皆さんが協力してそれぞれの区を魅力的でより快適にしていく取り組みのことです。そこで、中央区における取り組みの指針として「中央区まちづくりビジョン」を策定しました。

策定にあたりましては、区民3,000人を対象としたアンケートやインタビューをはじめ、ワークショップやシンポジウム等様々なかたちで多くの区民のみなさんに関わっていただき、ご意見をいただきました。また、区内の小中学生を対象に「こんなまちがいいな 未来の中央区」と題して絵画コンクールも実施しました。

様々な皆さんからのご意見をふまえ、本ビジョンでは、めざす区の姿を「新たな出会いと未来創造の都会(まち)～つながる、中央区。～」と定め、区民と行政及び、区民の皆さん相互が様々な形で「つながる」ことで、誰もが暮らしやすさを実感し、誇りを持って住める元気なまちを目指すこととしています。

今後このビジョンに基づきまちづくりに取り組むにあたっては、区民の皆さんとの情報の共有や十分な対話により、協力・連携を図ることが重要であると考えています。区民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に、策定に際しまして地域の自治会関係者の方々をはじめ、多くの区民の皆さんに貴重なご意見やご協力をいただきましたことに対し、心から感謝を申し上げます。

平成25年3月

中央区長 前淵 啓子

【目 次】

第1章 策定にあたって

- 1 策定の趣旨
 - (1) 策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) ビジョンの役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (3) 期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 中央区の現状
 - (1) 区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - (2) 区の魅力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - (3) まちづくりの課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

第2章 めざす区の姿とまちづくりの方向性

- 1 めざす区の姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 2 まちづくりの方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
 - 方向性1 “きらり”とひかる品格ただようまちをつくる
 - 方向性2 “わくわく”があふれる活力と賑わいのあるまちをつくる
 - 方向性3 “ほっと”できる安全で安心なまちをつくる
 - 方向性4 “いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

第3章 ビジョンの推進に向けて

- 1 参画と協働によるまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 2 情報の共有と住民対話の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

用語の解説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

資料編1 策定の経緯・まちづくりに対する区民の思い

- 策定の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
- まちづくりに対する区民の思い
 - 1 区民アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
 - 2 地域アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
 - 3 ホームページアンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
 - 4 有識者インタビュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
 - 5 地域懇話会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
 - 6 絵画コンクール等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

資料編2 統計資料

- 統計資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

CHAPTER 1

策定にあたって

「こんなまちがいいな 未来の中央区」絵画コンクール 中央区賞



白川小学校1年 桑原 亜美利さん「はなたばのくまもと」



1 策定の趣旨

1) 策定の目的

2012（平成24）年4月に政令指定都市熊本が誕生し、新たに中央区を始め5つの区が設置されました。それぞれの区は、人口や面積、産業構造や歴史・文化などに特徴があり、地域が抱える課題も様々です。

中央区では、区役所が区のまちづくりの拠点となり、区民に身近な行政窓口としての役割を担うとともに、これまで以上に地域の実情や区民の思いに即したまちづくりを進めることにより、さらに暮らしやすさを実感できるまちの実現をめざしています。

また、区民には、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という理念のもと、まちづくりに主体的に参画することが求められています。

そこで、今後の中央区のまちづくりの方針を明らかにし、区民と行政の協働によるまちづくりを進めるために、本ビジョンを策定します。





2) ビジョンの役割

本ビジョンは、区民と行政の共通の目標として、めざす区の姿を描き、その実現に向けたまちづくりの方向性を示すものです。

中央区役所においては、中央区の未来を展望し、区民とともに取り組む区政推進の指針とします。

また、区民にとっては、まちづくりの実践の場における取り組みの指針となることを期待するものです。

3) 期間

10年後の2022（平成34）年度までを期間として、本ビジョンに基づいてまちづくりを推進します。



熊本城の長堀と桜

2 中央区の現状

1) 区の概要

ア 位置と地勢

中央区は熊本市のほぼ中央に位置しており、他の4つの区と隣接し19の小学校区で構成されています。城下町を中心に市街地が発展してきたエリアで、熊本城周辺に中心市街地が形成され、ほぼ全域が市街地となっています。区内を白川と坪井川が縦断し、中心部の熊本城一帯や北部の立田山の豊かな緑、南東部の水前寺成趣園や江津湖等の湧水の潤いなど自然にも恵まれています。



※ 地図上の表示は小学校区

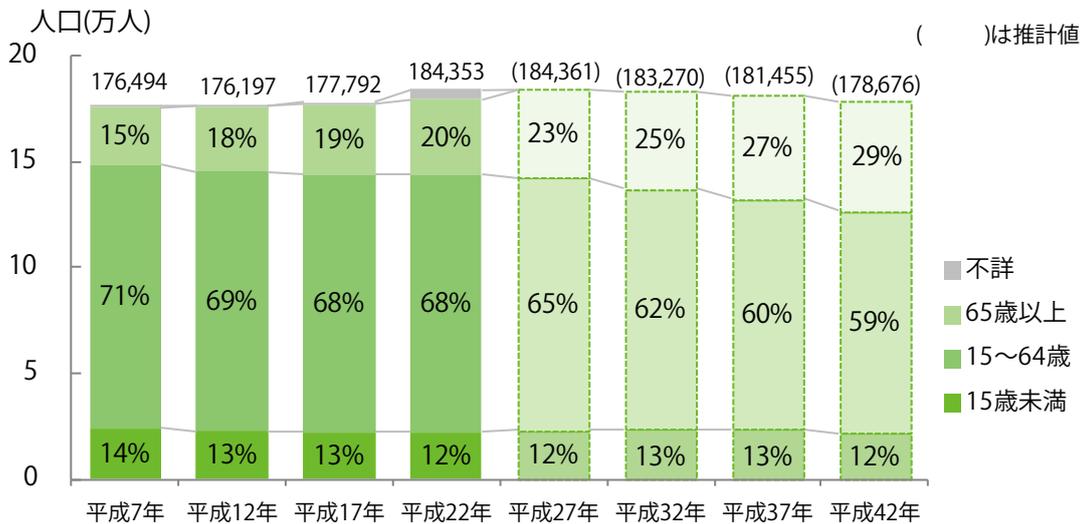


イ 人口と世帯

人口は約18万4千人と5つの区の中では2番目に多い一方で、面積は約25km²と最小であり、人口密度が突出して高く、人口が集中している地域です。また、他区からの通勤・通学、買い物客等が多いため、昼と夜の人口の差が大きいという特徴があります。

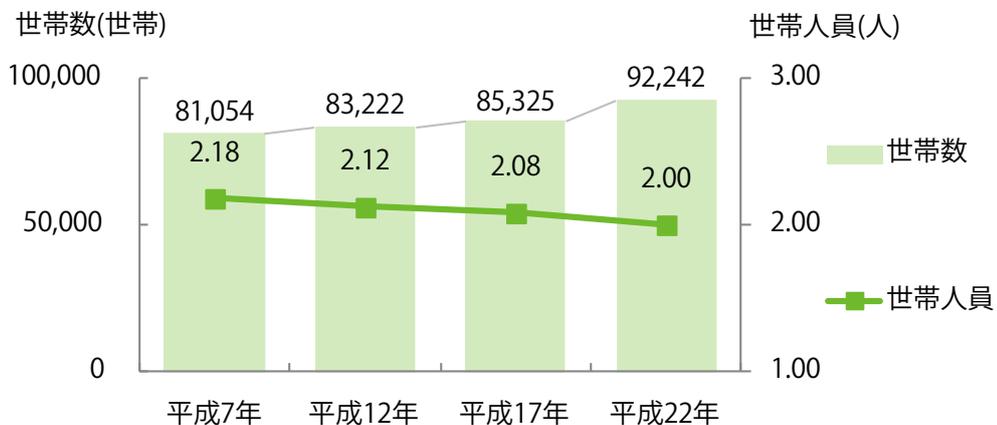
人口推移は、1995（平成7）年から2010（平成22）年の15年間で約8千人増加しています。年齢別人口構成では、「15歳未満」と「15歳～64歳」の割合がともに減少し、逆に「65歳以上」の割合が増加傾向にあります。

また、一世帯あたりの人員については、単身世帯の増加や核家族化により年々減少する傾向にあります。



中央区の人口構成の推移

出典：平成22年までは国勢調査、平成27年以降は熊本市中央区推計



中央区の世帯数及び世帯人員の推移

出典：国勢調査

ウ 歴史・文化

奈良時代には肥後国の国府や国分寺が設置され、室町時代には現在の熊本城域の一部に隈本城が造られるなど、中央区エリアは古くから都市の重要な拠点となっていました。

江戸時代には、熊本城周辺に城下町が形成され、当時の町名や町割りなど、今もその名残が見られます。また、独自の武家文化が花開き、肥後象嵌（そうがん）や肥後六花をはじめ、泰勝寺跡、旧細川刑部邸や水前寺成趣園など、この時代に由来する伝統工芸、芸能、文化財が、区内の随所に残り、本市文化の大きな魅力となっています。

明治時代には、九州の政治・軍事を統括する拠点として各種の官庁が置かれ、わが国近代化の歴史の上で多くの舞台ともなりました。また、旧制第五高等学校の創立により学都としての機能も強化され、その後、経済の中心としても発展していきました。

大正以降、近隣町村との合併により市域が拡大していく間も常に政治・経済・文化の中心的役割を担い、2012（平成24）年4月、政令指定都市移行に伴い「中央区」が誕生しました。



熊本城下絵地図（1800年頃の城下町）

出典：熊本市立熊本博物館所蔵



エ 都市インフラ

市営の路面電車が中心市街地を貫いて区の東西を横断し、新水前寺駅においてJR豊肥本線との乗り継ぎの利便性が向上されるなど、市民の生活を支える重要な足のひとつとして、通勤通学者など多くの人に利用されています。また、熊本電鉄が中心市街地北側の藤崎宮前駅から合志市方面へ運行しています。

道路網については、国道3号をはじめ、国道266号（通称浜線バイパス）や主要地方道熊本高森線など幹線道路が通っています。また、桜町地区にあるバスターミナルからは、放射線状にバス網が張り巡らされており、公共交通の拠点となっています。

また、大学や高等学校、図書館等の教育施設や病院診療所等の医療施設も数多く立地しており、都市インフラが充実しています。

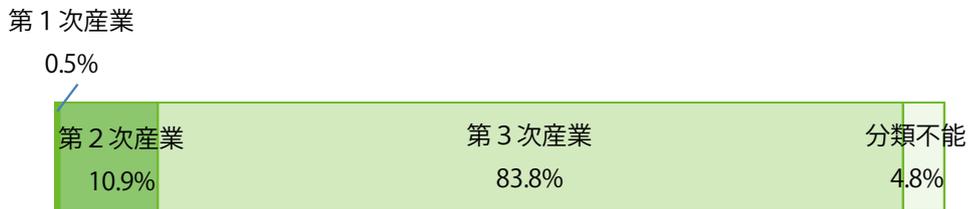


中央区の交通網及び主な施設

オ 産業

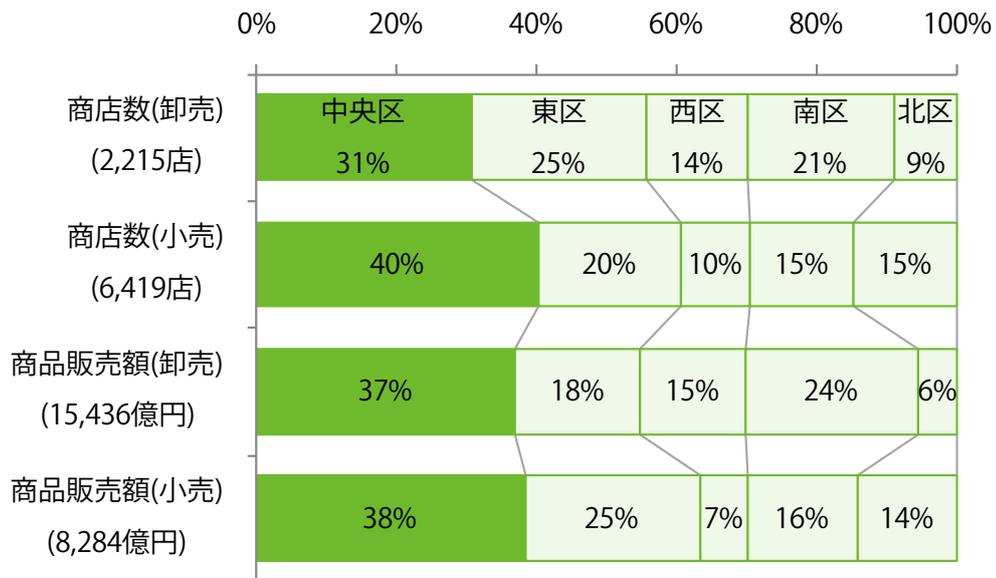
本市の中心部を構成していることもあり、商業やサービス業などの第3次産業が最も盛んな区です。産業別就業人口は、第3次産業への従事が8割以上を占めており、第1次産業への従事者は1%にも満たない状況です。

また、平成19年度の商業統計によると区内の卸売・小売業については、商店数、商品販売額ともに市全体の約4割を占めており、特に中心市街地は県内随一の商業集積エリアとなっています。



中央区の産業別就業人口の割合

出典：平成22年国勢調査



各区の商店数及び年間商品販売額の割合

出典：平成19年度商業統計



2) 区の魅力

ア 熊本の顔

熊本のシンボルである熊本城と県下を代表する繁華街を有し、行政やビジネスの中心ともなっている地域です。

熊本城や桜の馬場城彩苑、水前寺成趣園等の観光名所には県内外から多くの観光客が訪れ、中心市街地のアーケード街周辺には昼夜を問わず賑わいがあります。

また、桜町・花畑周辺地区においては、中心市街地のさらなる賑わいと回遊性の向上を目指すシンボルプロムナード構想や、全国規模の大会・学会等をはじめ様々なイベントに対応できる多目的集客施設の整備などが検討されており、熊本固有の歴史・文化を生かしたにぎわいの創出と政令指定都市に相応しい顔づくりが進められています。



熊本城と市電



水前寺成趣園



下通り

イ 都市機能の集積

熊本市役所や熊本県庁などの行政機関をはじめ、企業、銀行、新聞社、放送局、商業施設、ホテルなどが集中し、本市の社会経済機能を中心的に担っている地域です。

国立病院機構熊本医療センターや熊本大学医学部附属病院など、市内の病院・診療所の約4割が立地しています。また、県立劇場や市民会館など市全体の劇場・ホールの約半数が立地し、美術館・博物館も集中しています。このほか大学などの高等教育機関や図書館・図書室、公民館などの生涯学習施設、スポーツ施設も多く立地しています。

このように、公的サービス・金融・商業・医療・交通など都市生活をおくる上で必要・便利な機能がコンパクトに集積していることから、多くの区民が居住し、他区からも多くの通勤・通学者や買い物客などが訪れる地域となっています。



熊本市の中心市街地



ウ 都会の中に豊かな自然と歴史が共存

建物が密集し、多くの人々が往来する都会的風景の中にも、自然の安らぎと豊かな歴史が感じられる地域です。

熊本城公園や立田自然公園、市街地の緑など古くから「森の都」と称される緑や、水前寺江津湖公園、白川、坪井川などの水辺環境は多くの区民の憩いの場となっています。

また、熊本城の東側には、アーケード街を核とする県内一の商店街が広がり、にぎわいを見せている一方で、その南西方面に続くエリアには、城下町の風情が随所に残り、町屋の保存活用などが進められています。

このほか、明治以降の歴史的建造物等も多く残り、まちの魅力を高めています。



町屋



上江津湖



オークス通り

エ 高校・大学が多く、若者の活気がある

学都としての歴史を背景に熊本大学（旧第五高等学校）、熊本学園大学、九州ルーテル学院大学及び尚絅大学が立地し、学生数においては市全体の約7割を占めており、海外からの留学生も多く居住しています。また、高等学校についても学校数及びその生徒数は市全体の約6割を占めています。

このほか専門学校なども多く立地しており、街中に若者の姿が多くみられる、熊本の新しい文化をリードする活気あふれる地域となっています。



留学生との交流



サムライ祭での清掃活動



高等教育コンソーシアム熊本の清掃活動に参加した大学生たち



3) まちづくりの課題

わが国における少子高齢化の進展や人口減少社会の到来は、労働人口の減少や社会保障費の増加、経済活動の低迷、高齢者単身世帯の増加などの問題を生じさせています。

中央区においても、将来的には人口減少やさらなる高齢化が予想され、地域での支え合いや災害等の対応など地域コミュニティの重要性が改めて再認識されています。

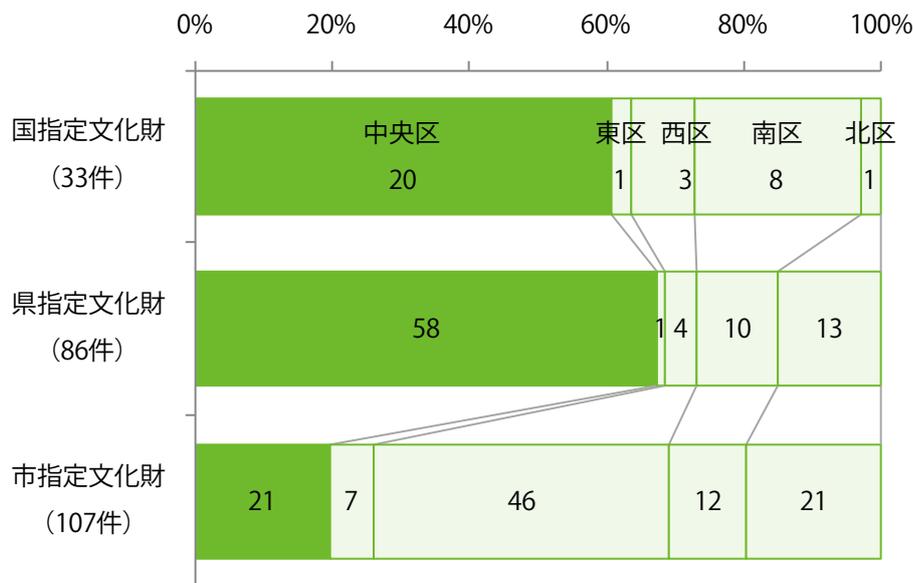
このような状況を背景として、以下にまちづくりの課題をまとめました。

ア 歴史・文化を活かしたまちの魅力の向上

中央区には、数多くの歴史的・文化的資産があるにもかかわらず、区民に十分知られていない現状があります。

その土地固有の歴史や文化の価値を区民自らが知り、大事にすることは、それらに新たな輝きを与えるだけでなく、区民の地域への愛着を育み、まち全体の魅力や活力を引き出すことにつながります。

そこで、自らが暮らし活動する地域の歴史や文化を知り、まちの誇りや魅力として磨きをかけていくことが必要です。



各区の文化財数

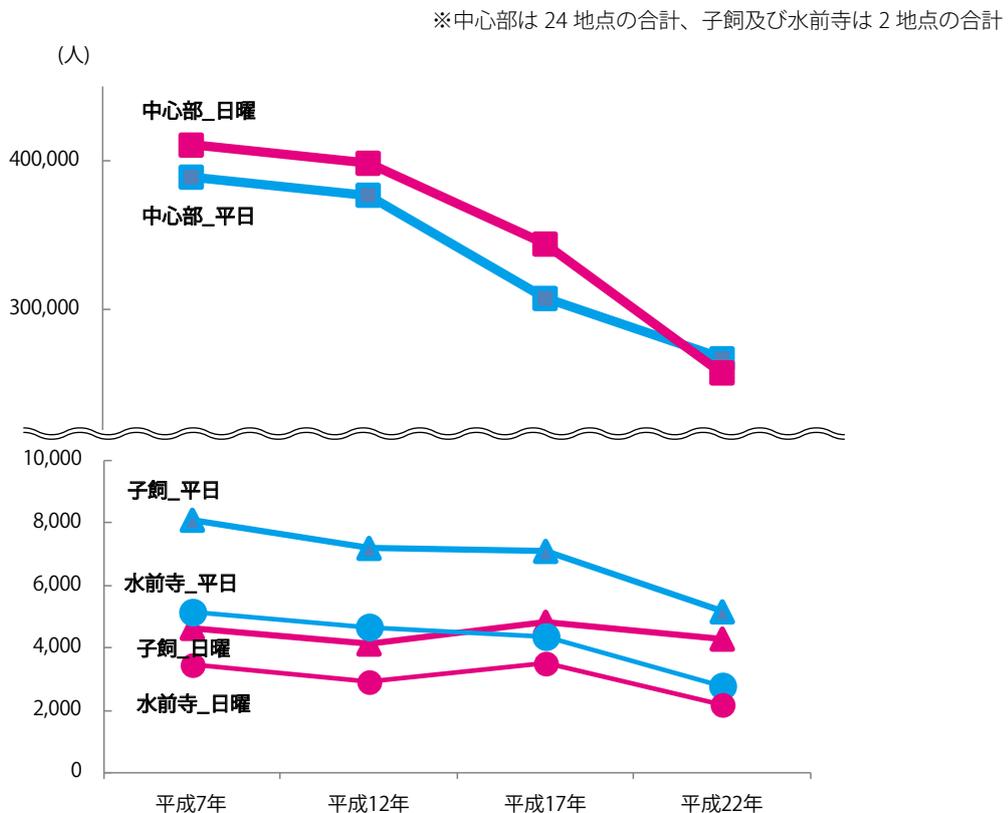
出典：熊本市文化振興課提供資料（平成24年）

イ まちの賑わいと活力の創出

大規模商業施設の郊外への立地や人々のライフスタイルの変化などに伴い、中心市街地や地域の商店街の集客力が低下しています。中心市街地の魅力を高めることは、区はもとより市全体の活力の維持・向上に重要です。

また、高齢化が進む中、歩いて行ける身近な地域の商店街や診療所などの存在は、地域の暮らしを支える上でますます重要になっており、これらを維持し、日常生活が快適で便利に過ごせるような取り組みが必要となってきています。

文化・芸術が豊かな地域では、人々が心にゆとりと潤い、感動をもてるだけでなく、その魅力は新たな産業や観光資源となるなど、まちの活力づくりにも大きな力となります。中央区では多くの文化・芸術活動が展開されており、日ごろから文化・芸術に親しみ、まちの活力につないでいく取り組みが必要です。



中心部、子飼及び水前寺の通行量の推移

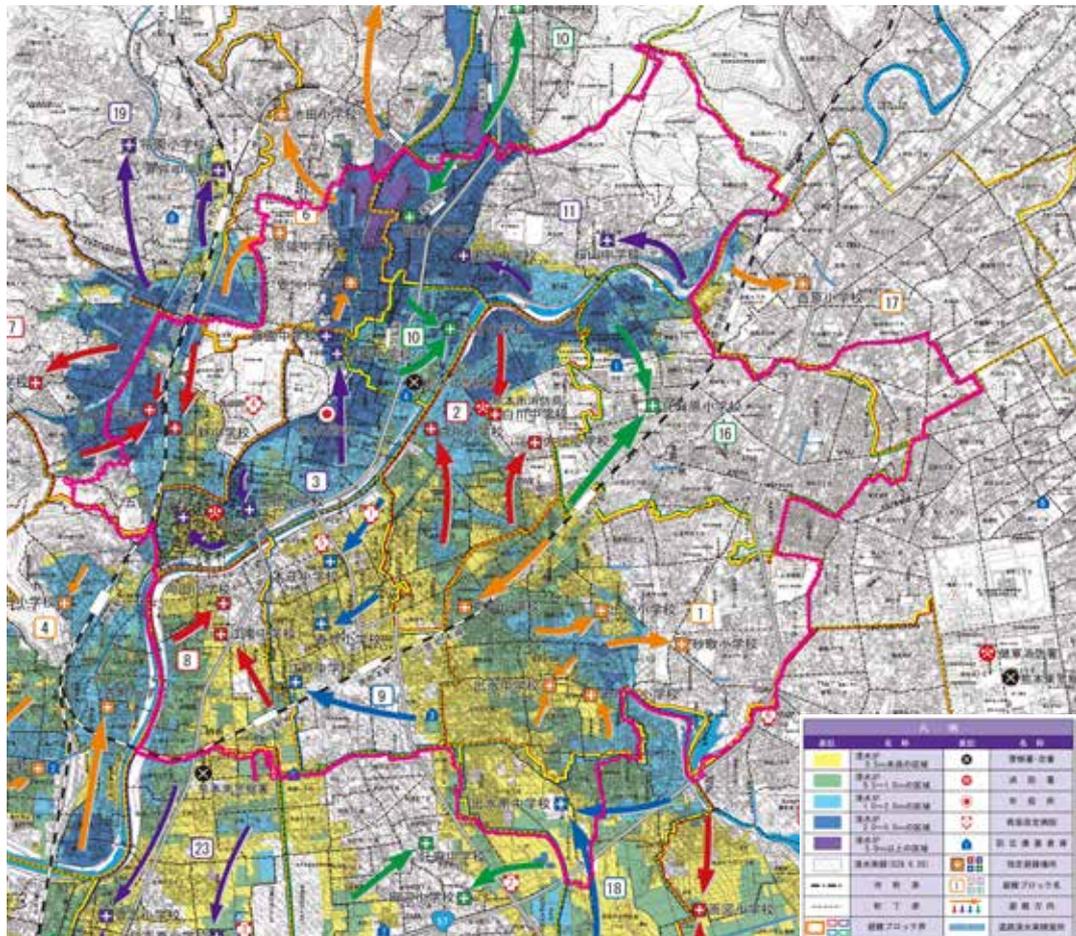
出典：商店街通行量調査結果報告書

ウ 自然災害への備えと事故・犯罪の防止

区域内を流れる白川や坪井川などの河川は、まさに潤いの空間を演出していますが一方で、本市は、これまでも大規模な水害に見舞われており、今後も区内において河川等の氾濫による浸水が想定されています。このようなことから、地域の防災体制の強化や自分の安全は自分で守り（自助）、地域の人と助け合う（共助）取り組みなど、災害に強いまちづくりを進める必要があります。

また、中央区は車の通行量が多い中、古くからの町並みや住宅街では、歩道が十分に確保できていないところがあります。特に通学する子どもたちや高齢者にとって危険な場所があることから、安全な歩行環境の整備が求められています。

さらに、誰もが安全で安心して歩ける繁華街であるための環境づくり、地域ぐるみでの防犯活動や青少年の非行防止活動などに取り組むことが必要です。



白川洪水避難地図（洪水ハザードマップ）

出典：熊本市危機管理防災総室提供資料

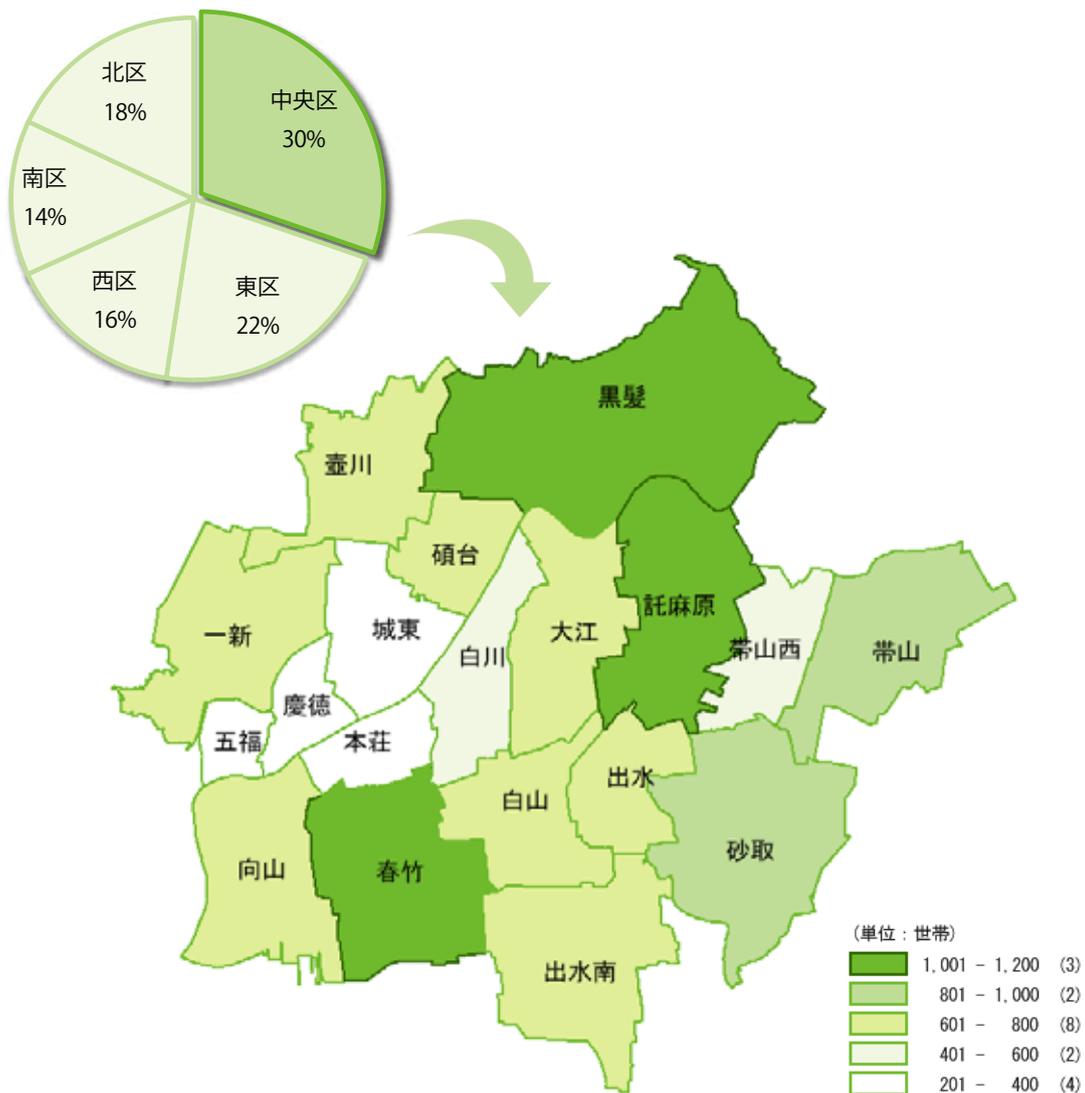
エ 地域での支えあいの推進

ライフスタイルの多様化に伴い、地域活動に無関心な人や地域との関わりを持たずにいる人が増えてきています。

このような中、長寿化や家族の形態の変化により高齢者だけの世帯が増加しており、市内の一人暮らしの高齢者の3人に1人が中央区に暮らしています。

また、核家族化や近所づきあいの希薄化により、子育てや健康、生活、仕事など様々な不安を抱えながら身近に相談できる人がなく、孤立する人が増えていきます。

誰もが、住み慣れた場所で健やかでいきいきと暮らせるよう、地域の中で助け合うためのつながりや、支えあいの心を育てていく取り組みが必要です。



校区別高齢単身世帯数

出典：熊本市住民基本台帳（平成24年6月1日）

CHAPTER 2

めざす区の姿とまちづくりの方向性

「こんなまちがいいな 未来の中央区」 絵画コンクール 中央区賞



城東小学校 5年 梶原 花さん 「にんじゃの町中央区」



1 めざす区の姿

新しい力

友達と
つながる

気持ちが
つながる

人と人が
つながる

親と子が
つながる

新たな出会いと未来創造の都会
～つながる、中央区。～

善意の輪が
つながる

自然と
つながる

大人と
子どもが
つながる

住民と
地域が
つながる

アジアと
つながる

夢が
つながる

区役所と
区民が
つながる



夢

区と区が
つながる

ビジネス
チャンスが
つながる

未来

地域と外国が
つながる

文化が
つながる

中央区は、多くの人々が暮らし、集い、活動するまちです。ここでは、人、もの、こと、情報などとのたくさんの出会いがあり、日々さまざまな形の「つながり」が生まれています。みんながこれら一つひとつの「つながり」を大切に活かし、そこから生まれる新たな発見をとおして、心豊かで活力ある未来を創り出しています。

ここでは、みんなが支えあって、いきいきと暮らしながら、年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、だれもが自分の持てる力を発揮し、夢を未来につなぐことができます。そして、身近な自然や歴史・文化を学び、まちの誇りとして磨き、このまちならではの魅力を未来に引き継いでいます。

私たちは、このような中央区をめざします。

やさしい
気持ち
が
つながる

新幹線
で
つながる

地域と地域が
つながる

ボランティアが
つながる

男性と
女性が
つながる



2 まちづくりの方向性

めざす区の姿を実現するため、以下の4つのまちづくりの方向性に沿った取り組みを進めます。

新たな出会いと未来創造の都会 ～つながる、中央区。～

まち

方向性 1
 “**まらり**” とひかる
 品格ただようまち
 をつくる

方向性 2
 “**わくわく**” が
 あふれる活力と賑わい
 のあるまち
 をつくる

方向性 3
 “**ほっと**” できる
 安全で安心なまち
 をつくる

方向性 4
 “**いきいき**” と暮ら
 せる
 健やかなまち
 をつくる





方向性

1

“まわり” とひかる 品格ただようまちをつくる

今につながる伝統ある歴史や文化、「森の都」と称された市街地や立田山の緑、水前寺江津湖の清らかな湧水など、魅力ある資産を大切に育てます。

また、歴史、文化、自然が共存しているこの地に暮らすことに誇りを持ち、来訪者を暖かく迎え入れ、もう一度訪れたいくなるような、誰にとっても心地よい心豊かなまちをつくります。

<主な取り組みの視点>

- 身近なまちの歴史や自然、文化を学び、育む機会の充実
- 熊本城をシンボルとした城下町の風情の保全と創造
- おもてなしの心、笑顔にあふれたまちづくり
- 「花いっぱい」など清潔で美しい生活環境づくり





方向性

2

“わくわく”があふれる 活力と賑わいのあるまちをつくる

都市機能の充実を図りながら、集いの場、憩いの場としての中心市街地の魅力をさらに向上させます。

また、各地域の商店街や観光・文化施設などが連携して、中心市街地をはじめ水前寺や江津湖などの回遊性を高めるとともに、まちに集う様々な人々が交流し、それぞれの能力を活かすことで、新しい魅力と活力を生み出すまちをつくります。

<主な取り組みの視点>

- 歩きたくなる中心市街地の魅力の向上と発信
- 身近な商店街の利用の増加と魅力向上
- 若者や女性など多様な人材が活躍できる環境づくり
- 文化・芸術あふれるまちの魅力向上



方向性
3

“ほっと”できる 安全で安心なまちをつくる

日頃からの区民相互の交流をとおして地域のつながりを築きます。

その中で、地域全体で防災への関心を高め、災害時の協力体制をつくるとともに、区民が協力して子どもや高齢者の安全を見守り、青少年の非行や犯罪を防止するなど、地域で互いに支えあう事故や犯罪の起きにくいまちをつくります。

<主な取り組みの視点>

- 挨拶や行事参加をとおした区民のつながりづくり
- 地域での防災訓練の実施やハザードマップ作成の推進
- 地域や学校、警察などの関係機関の連携強化
- 登下校時の見守りなど通学路の安全確保





方向性
4

“いきいき”と暮らせる 健やかなまちをつくる

区民一人ひとりが自ら健康づくりに努めるとともに、高齢者や子育て中の人などが周囲から孤立せずに、みんな仲良くいきいきと暮らせるための環境づくりに取り組みます。

また、障がいのある人も地域の中で暮らしやすいよう支援し、誰もが生きがいを持ち、心豊かな暮らしができるまちをつくります。

<主な取り組みの視点>

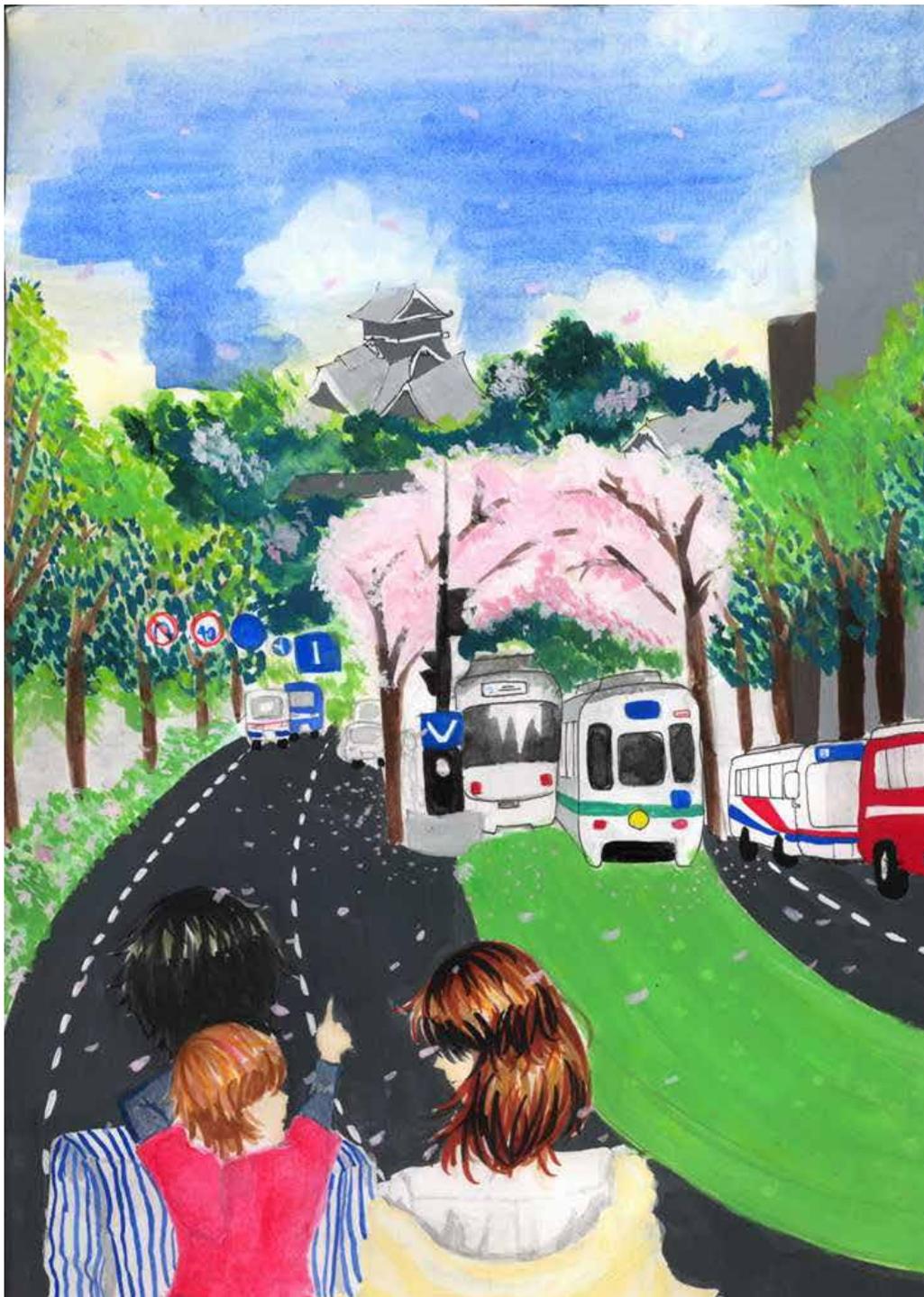
- 高齢者を孤立させない仕組みづくり
- 子育て支援や悩みを相談できる交流の場づくり
- 障がいのある人が自らの能力を発揮できる場づくり
- 生活習慣病予防などの校区で取り組む健康づくり



CHAPTER 3

ビジョンの推進に向けて

「こんなまちがいいな 未来の中央区」 絵画コンクール 中央区賞



帯山中学校3年 小田 澄さん「笑顔と緑があふれる中央区」



ビジョンの推進にあたっては、次のことを基本として取り組みます。

1 参画と協働によるまちづくり

ビジョンの推進にあたっては、まちづくりへの区民の幅広い参画が必要です。区民が地域におけるまちづくりの主役として、企画や準備段階から実施・評価まで積極的に関わることで、より地域の実情に即したまちづくりを進めることが可能となります。また、区民と行政が対等な立場で役割と責任を担い、協力・連携して、協働によるまちづくりに取り組むことが必要です。

そのために、区民で構成し、区のまちづくりを推進するための具体的な取り組みについて協議する「中央区まちづくり懇話会」を設置し、参画と協働によるまちづくりを進めます。

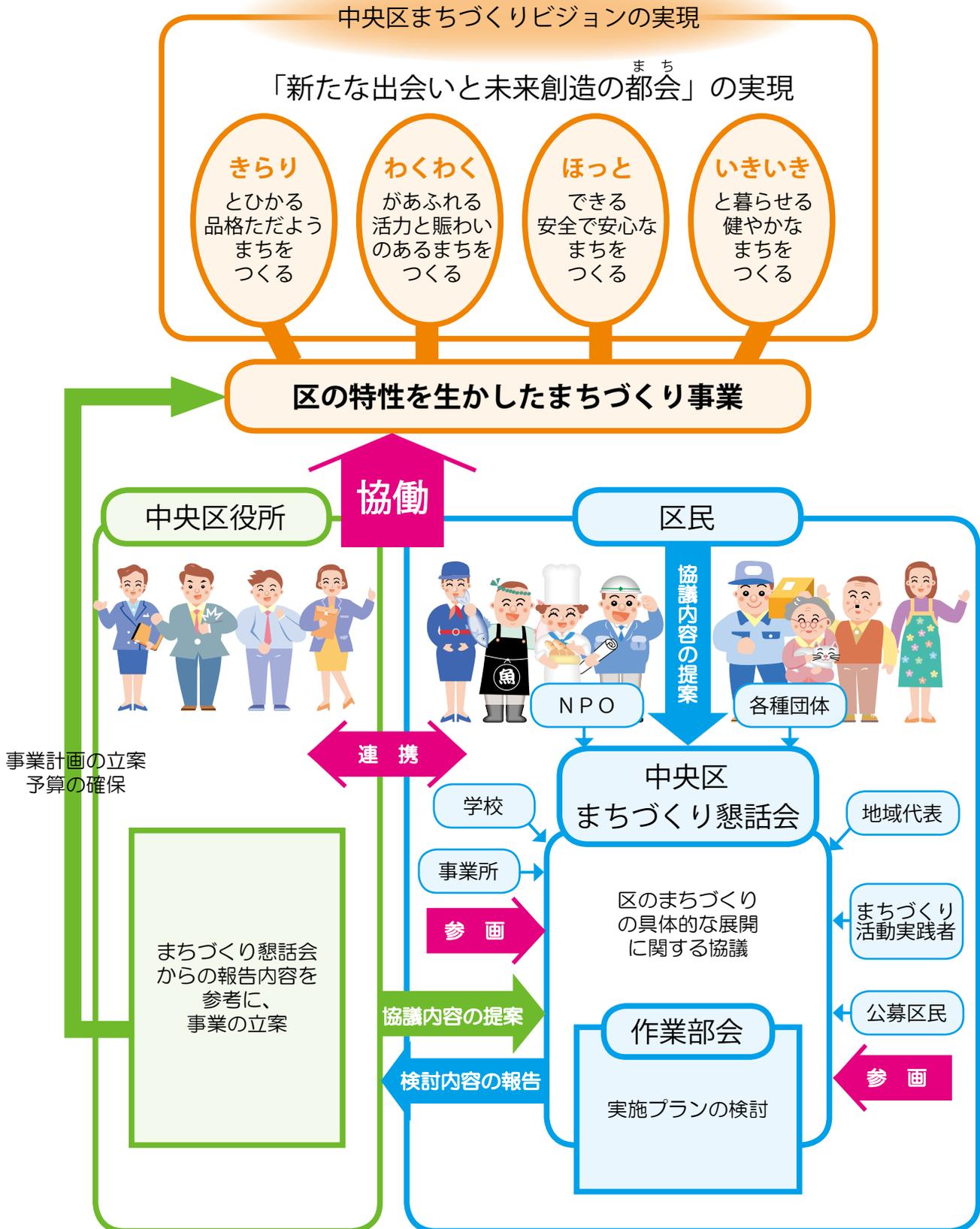
2 情報の共有と住民対話の推進

ビジョンの推進にあたっては、区役所と市役所各部署との情報共有・連携が重要であるとともに、区民と行政の情報共有が不可欠です。また、情報を共有することで、まちづくりの新たな視点や手法を見出す効果も期待できます。

そのために、情報の内容に応じた効果的な広報手段を用いながら行政情報の発信に努めるとともに、区民の声を幅広く聴く仕組みや定期的な校区間の情報交換の場を設けるなど、区民と行政及び、区民間の対話を積極的に推進します。



●まちづくりビジョンの推進体制



●用語の解説

あ行

オープンハウス (P31,42)

中心市街地や公共施設等人が集まる場所で、パネルや模型の展示、リーフレット等の資料の配布など、市民が気軽に参加でき、事業の説明や情報提供を受ける機会を設けるもの。

か行

回遊性 (まちの回遊性) (P9,22)

観光・商業施設と周辺地域間においての人の動きや、流れ。

協働 (P2,26,27,34)

同じ目的のために、それぞれが対等な立場に立ち、役割と責任を担い、協力すること。

さ行

参画 (P2,26,27,34)

施策の立案から実施及び評価までの過程に主体的に参加すること。

シンボルプロムナード構想 (P9)

正式名称：桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント基本構想。桜町・花畑地区の間に位置する道路を歩行者空間化し、「人が主役のシンボルプロムナード」と位置付け、歩くことを楽しめる空間として賑わいの創出や回遊性の向上を図る構想。

生活習慣病 (P24)

肥満、高血圧、糖尿病など、生活習慣が原因で発病する病気の総称。

産業別就業人口 (P8)

産業構成を第1次(農業、林業、漁業)、第2次(鉱業、工業、建設業など)、それ以外の第3次(卸売業、小売業、運輸業、金融業、サービス業、公務など)に分けた各産業別の就業者人口。

た行

地域コミュニティ (P13,32,36,37)

町内や小学校区など、人々が共同体の意識をもって生活を営む一定の地域、及びその人々の集団のこと。

都市インフラ (P7)

鉄道・道路などの交通施設、上下水道・電力・ガスなどの供給処理施設、通信・電話などの情報通信施設など都市生活になくしてはならない施設。

都市機能 (P10,P22)

都市に必要とされる様々な働きやサービスのことで、居住、商業、業務、工業、交通、政治、行政、教育、福祉、医療などの諸活動によって担われる。

は行

ハザードマップ (P15,23)

自然災害で想定される被害範囲・程度などを地図に表わしたもので、それに加えて、避難場所などの情報を図示し、迅速・的確な避難を手助けする地図。

パブリックコメント (P31)

市の計画、条例、規則、制度等の素案、選択肢、論点等を施策の立案過程において広く公表し、市民が多様な意見、情報、専門的知識等(以下「意見等」という。)を提案し、又は提供する機会を設け、市民から提出された意見等を考慮して計画等の検討を行うとともに、検討結果についても広く公表する一連の手続。

ビジョン (P2ほか)

区のまちづくりを進めるうえでの指針となるもので、区の将来像や特性を生かしたまちづくりの方向性を示すもの。

ま行

まちづくり (P2ほか)

自らが生活し、又は活動している地域をはじめとして、市を魅力的でより快適にしていく活動。

まちづくり懇話会 (P26,27,31)

区民の参画によって、本ビジョンに基づく区の特性を活かしたまちづくりに関する事項について協議を行う場。

ら行

歴史的建造物 (P11)

まちの景色に深みと個性をもたらすとともに、そのまちを特徴付ける大切な役割を果たす建造物。

わ行

ワークショップ (P40)

特定のテーマや課題に対応するため、具体的課題の抽出及び解決等について、集団による共同作業や話し合いを通じて意見等の集約を図る手法。

資料編

1

● 策定の経緯 ● まちづくりに対する区民の思い



白川小1年 田尻一華さん



城東小2年 梶原青葉さん



城東小2年 木下猛嗣さん



白川小4年 田尻一哲さん



帯山中2年 與儀日呂扇さん



五福小6年 小原匠さん



託麻原小1年 渡辺美莉海さん



●策定の経緯

| 日 時 | 区民からの意見聴取等 | 庁内会議 |
|-----------------------|----------------------------|----------------|
| 平成 24 年 | | |
| 4 月 18 日 | | 第 1 回ビジョン策定検討会 |
| 5 月 9 日 | | 第 2 回ビジョン策定検討会 |
| 6 月 28 日 | | 第 3 回ビジョン策定検討会 |
| 7 月 2 日 | 碩台校区訪問 | |
| 7 月 3 日 | 託麻原・本荘校区訪問 | |
| 7 月 6 日 | 帯山西・一新校区訪問 | |
| 7 月 7 日 | 出水校区訪問 | |
| 7 月 7 日 | 市政リレーシンポジウム（区のみちづくりを、考える。） | |
| 7 月 10 日 | 大江・黒髪・向山校区訪問 | |
| 7 月 10 日 ～9 月 12 日 | 「こんなまちがいいな未来の中央区」絵画募集 | |
| 7 月 11 日 | 砂取・出水南校区訪問 | |
| 7 月 13 日 ～27 日 | 区民アンケート実施 | |
| 7 月 17 日 ～8 月 31 日 | ホームページアンケート | |
| 7 月 19 日 | 春竹校区訪問 | |
| 7 月 21 日 | 城東校区訪問 | |
| 7 月 22 日 | 白川校区訪問 | |
| 7 月 24 日 | 帯山校区訪問 | |
| 7 月 25 日 | 壺川校区訪問 | |
| 7 月 30 日 ～9 月 7 日 | 有識者インタビュー | |
| 8 月 3 日 | 慶徳校区訪問 | |
| 8 月 7 日 | 五福校区訪問 | |
| 8 月 16 日 | | 第 4 回ビジョン策定検討会 |
| 8 月 24 日 | | 第 5 回ビジョン策定検討会 |
| 8 月 26 日 | 砂取校区訪問 | |

| 日 時 | 区民からの意見聴取等 | 庁内会議 |
|-----------------|---------------------------------|------------------|
| 8月28・29日 | 白山校区訪問 | |
| 9月3日 ～21日 | | 第6～9回ビジョン策定検討会 |
| 9月25日 | 地域懇話会（中央公民館） | |
| 26日 | ”（五福公民館） | |
| 27日 | ”（大江公民館） | |
| 28日 | ”（市役所別館） | |
| 29日 | ”（市役所別館） | |
| 30日 | ”（市青年会館） | |
| 10月1日 ～18日 | | 第10～14回ビジョン策定検討会 |
| 10月7日 | オープンハウス | |
| 10月21日 | 市政リレーシンポジウム in 中央区 | |
| 11月1日 ～16日 | | 第15～21回ビジョン策定検討会 |
| 11月23日 | 市政リレーシンポジウム（私たちの区、私たちの未来。） | |
| 11月27日 | | 市政経営会議 |
| 12月21日 | | 第22回ビジョン策定検討会 |
| 平成25年 | | |
| 1月10日 ～2月12日 | パブリックコメント | |
| 1月18日 | | 第23回ビジョン策定検討会 |
| 1月24日 | | 第24回ビジョン策定検討会 |
| 1月26日 | ビジョン（素案）及びまちづくり懇話会（案）説明会（市役所別館） | |
| 29日 | ”（ウエルパル熊本） | |
| 31日 | ”（五福公民館） | |
| 2月1日 | ”（中央公民館） | |
| 2月13日 ～3月 | | 第25～30回ビジョン策定検討会 |



●まちづくりに対する区民の思い

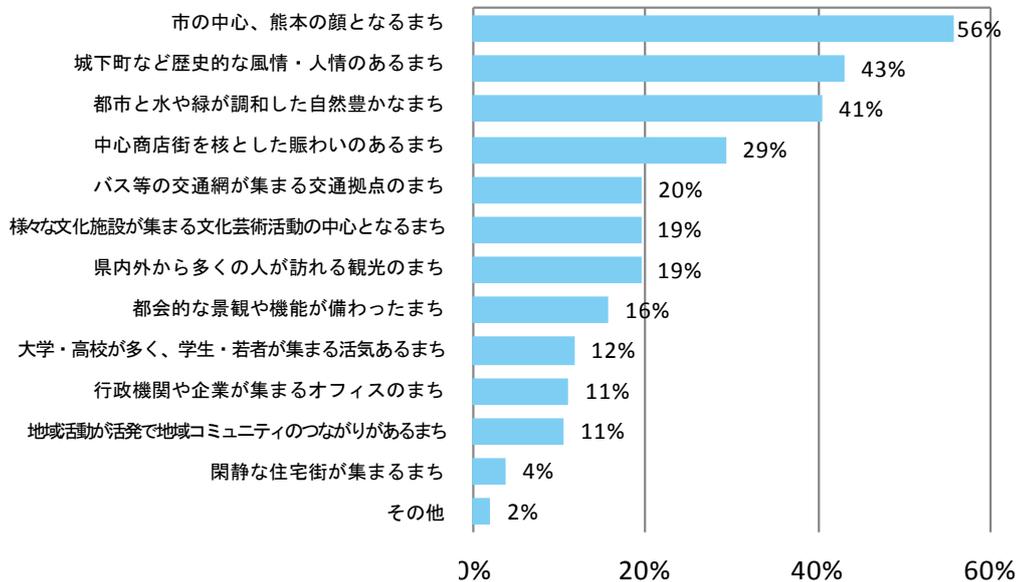
1 区民アンケート

- 実施時期 平成 24 年 7 月 13 日～7 月 27 日
- 調査対象 熊本市中央区在住の満 16 歳以上の男女 3,000 人
- 有効回収数 901 票（有効回収率：30.0%）
- 調査方法 郵送による配布・回収

1) 中央区のイメージ

「市の中心、熊本の顔となるまち」が最多で 56%

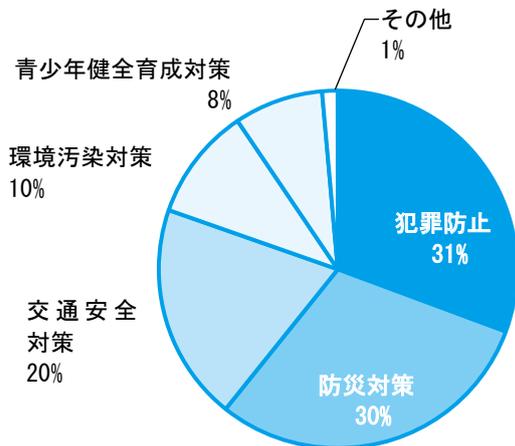
あなたが望ましいと思う（大切にしたい）「中央区」のイメージ（心の中に思い浮かべる姿や情景）は何ですか。（※複数回答・三つ以内）



2) 安全・安心に暮らせること

「安全に、安心して暮らせること」に関して、あなたが特に重視することは何ですか。

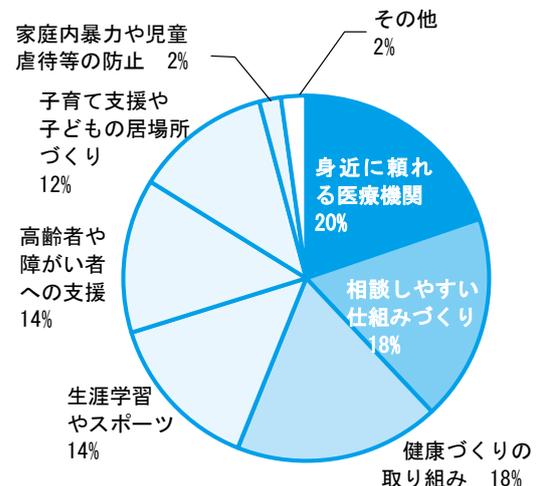
「犯罪防止」、「防災対策」がそれぞれ約 30%を占める。



3) 健康でいきいきと暮らせること

「一人ひとりが健康で、いきいきと暮らせること」に関して、あなたが特に重視することは何ですか。

「身近に頼れる医療機関」が最多で 20%

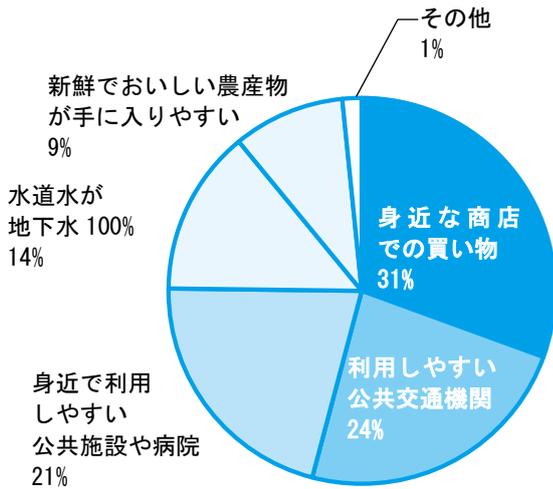




4) 日常生活が快適で便利なこと

「日常生活が快適で便利なこと」に関して、あなたが特に重視することは何ですか。

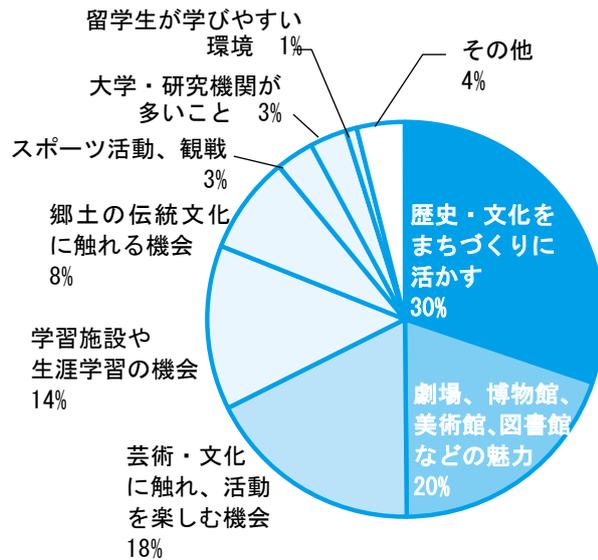
「身近な商店での買い物」が最多で31%



5) 伝統・文化、教育環境の充実

「伝統・文化に親しみ、教育や学ぶ環境が充実していること」に関して、あなたが特に重視することは何ですか。

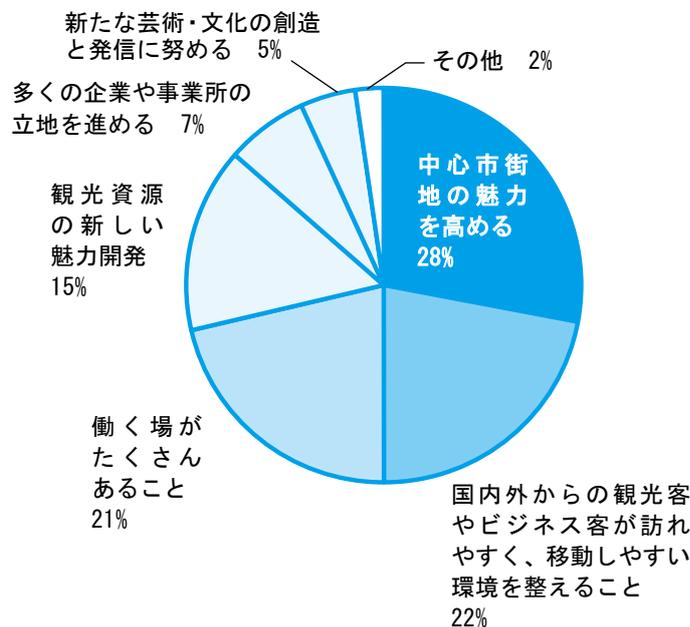
「歴史・文化をまちづくりに活かす」が最多で30%



6) 多くの人が集い、まちに活気があること

「多くの人が集い、まちに活気があること」に関して、あなたが特に重視することは何ですか。

「中心市街地の魅力を高める」が最多で28%

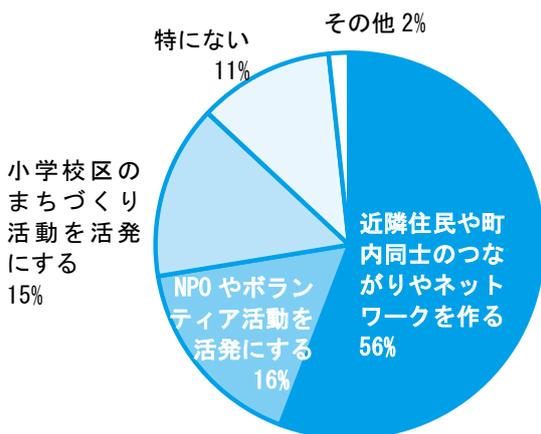




7) 地域の中でお互いに協力しあい助け合えること

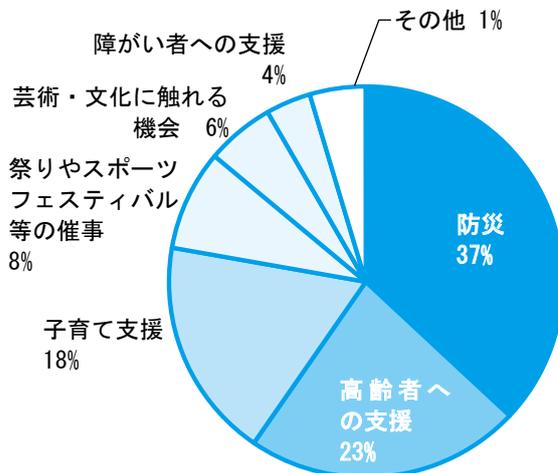
地域の中でお互いに協力しあうエリア（範囲）について、あなたが特に重視することは何ですか。

「近隣住民や町内同士のつながりやネットワークを作る」が最多で56%



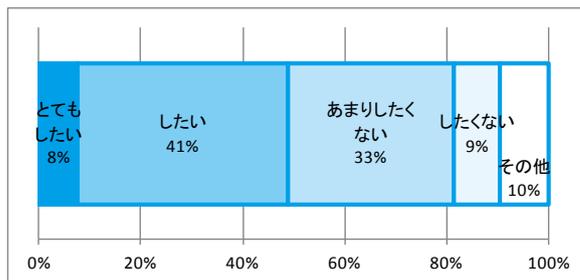
区民が「協働」して助け合うテーマ（事柄）について、あなたが今後、特に重視することは何ですか。

「防災」が最多で37%、次いで「高齢者への支援」が23%



あなたはお住まいの小学校区や区のまちづくり活動に「参画」することについてどう考えますか。

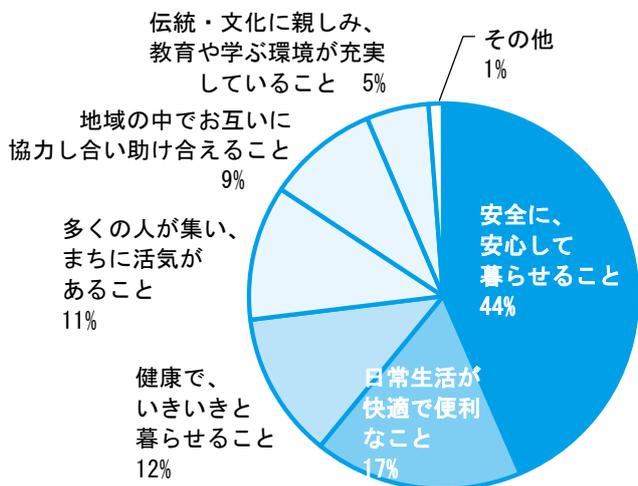
「とてもしたい」、「したい」合わせて49%



8) まちづくりで重視すること

今後、「中央区」のまちづくりを進めるうえで、あなたが特に重視することは何ですか。

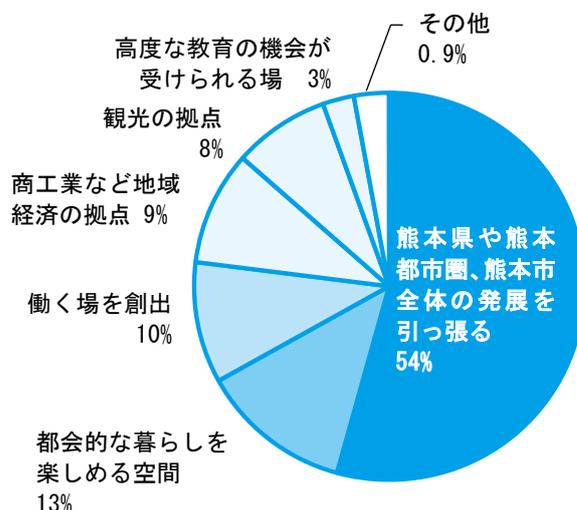
「安全に、安心して暮らせること」が最多で44%



9) 重要な役割

「中央区」に今後、どのような機能・役割が重要であるとあなたは思いますか。

「熊本県や熊本都市圏、熊本市全体の発展を引っ張る」が最多で54%



10) 誇りに思えること

あなたが現在住んでいる小学校区や中央区について、誇りに思えることは何ですか。(三つ以内)

- 1 交通
- 2 熊本城
- 3 教育（小中高校）
- 4 中心であること
- 5 買い物に便利
- 6 地域のつながり
- 7 病院が便利
- 8 緑が多い
- 9 子どもが挨拶してよい
- 10 街が活気がある

11) 改善すべきこと

あなたが現在住んでいる小学校区や中央区について、改善すべきと考えることは何ですか。(三つ以内)

- 1 道路がわるい*
- 2 歩道がない、狭い*
- 3 公共交通機関が不便
- 4 地域活動が少ない
- 5 子どもの遊び場が少ない
- 6 自転車が危険、自転車で走りづらい道*
- 7 車が多く危険*
- 8 交通渋滞
- 9 公園が少ない
- 10 マナーが悪い（ゴミ出し、ペットなど）

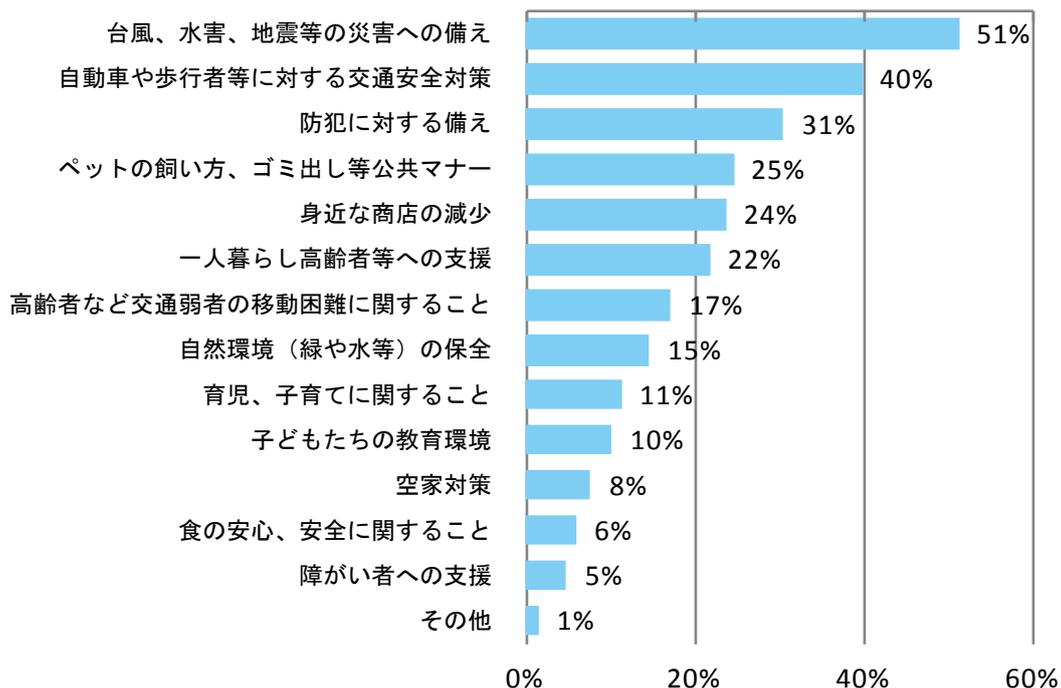
*は道路、歩道、自転車道など社会インフラ整備の遅れを指摘

(問 10.11 については、回答が多かった順に 10 項目)

12) 住んでいる地域で気がかりなこと

あなたが住んでいる地域で、今気がかりなことは何ですか。(三つ以内)

「台風、水害、地震等の災害への備え」が最多で 51%





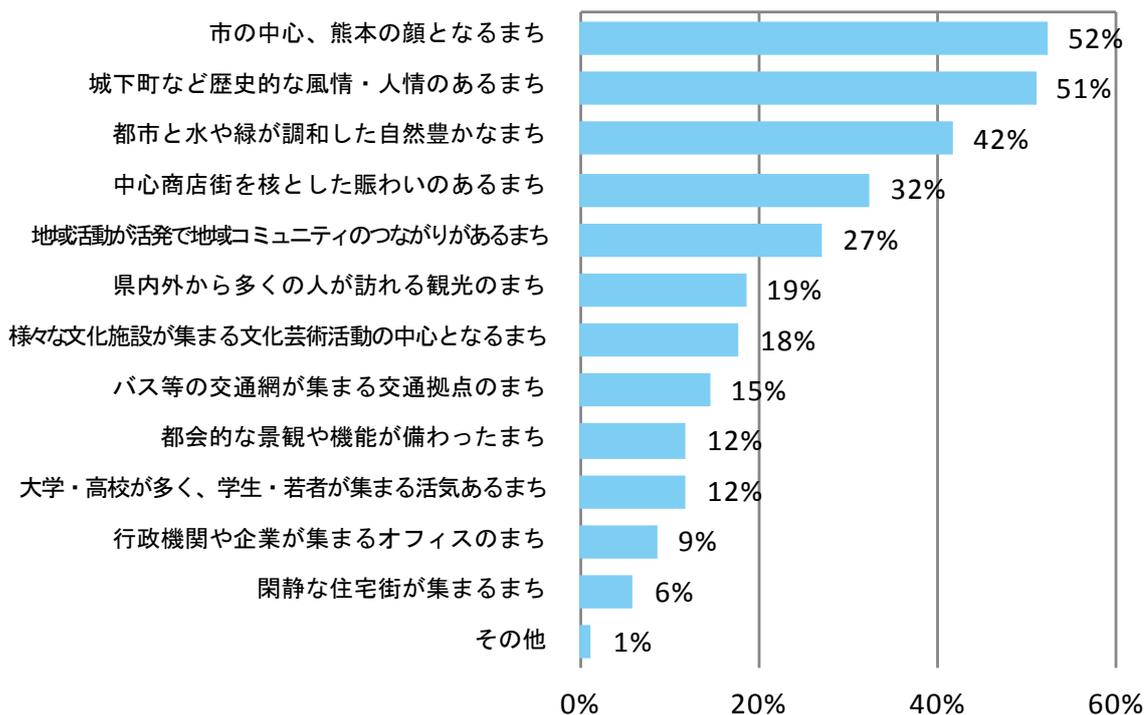
2 地域アンケート

- 実施時期 平成24年7月2日～9月18日
- 調査対象 熊本市中央区の校区自治協議会など各種団体に活動されている方々
- 有効回収数 158票
- 調査方法 説明会参加者へ直接配布・郵送による回収

1) 中央区のイメージ

あなたが望ましいと思う（大切にしたい）「中央区」のイメージ（心の中に思い浮かべる姿や情景）は何ですか。（※複数回答・三つ以内）

「市の中心、熊本の顔となるまち」が最多で52%
 区民アンケートと上位4つは同順ですが、11位だった「地域活動が活発で地域コミュニティのつながりがあるまち」が5位となり、コミュニティ意識の高さが伺えます。
 また、「バス等の交通網が集まる交通拠点のまち」は5位が8位となっています。



2) 誇りに思えること

あなたが現在住んでいる小学校区や中央区について、誇りに思えることは何ですか。（三つ以内）

- 1 熊本城
- 2 校区・地域活動が活発
- 3 歴史・文化

3) 改善すべきこと

あなたが現在住んでいる小学校区や中央区について、改善すべきと考えることは何ですか。（三つ以内）

- 1 通学路が狭い
- 2 地域活動
- 3 つながり、コミュニケーションが少ない



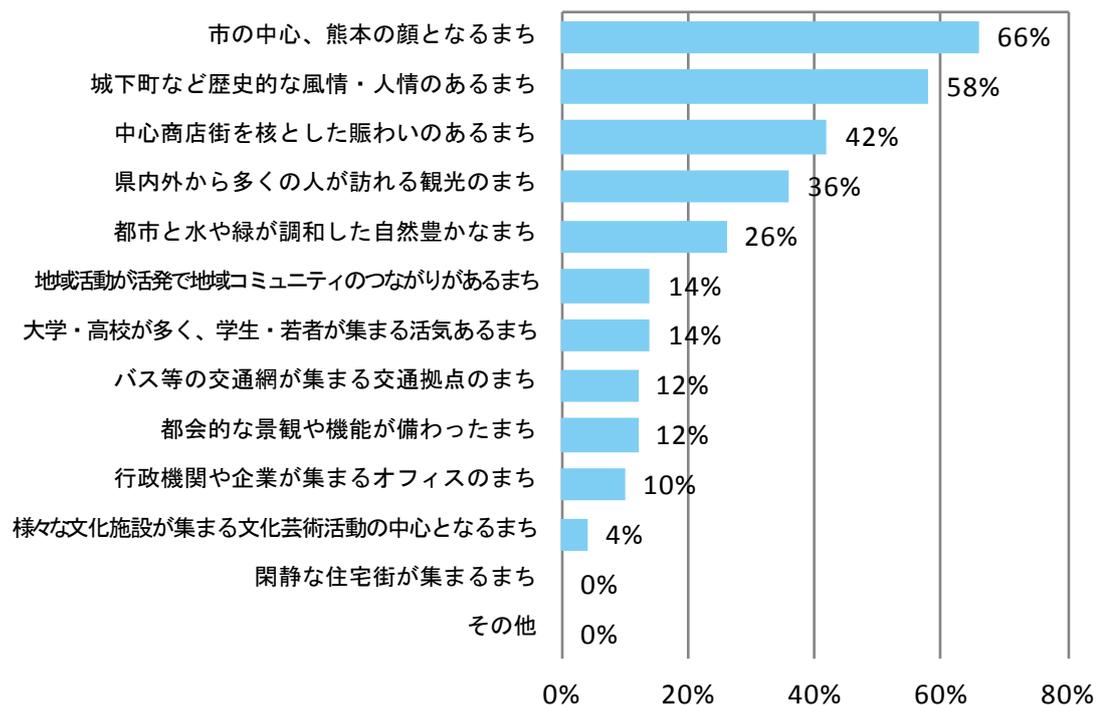
3 ホームページアンケート

- 実施時期 平成24年7月17日～8月31日
- 調査対象 熊本市中央区のホームページ閲覧者
- 有効回収数 50票
- 調査方法 熊本市中央区のホームページからのインターネットによる回答

1) 中央区のイメージ

あなたが望ましいと思う（大切にしたい）「中央区」のイメージ（心の中に思い浮かべる姿や情景）は何ですか。（※複数回答・三つ以内）

「市の中心、熊本の顔となるまち」が最多で66%
 区民アンケートと上位2つは同順ですが、4位の「中心商店街を核とした賑わいのあるまち」が3位、7位の「県内外から多くの人を訪れる観光のまち」が4位となり、商業や観光の賑わい拠点性のイメージが強調されています。



2) 誇りに思えること

あなたが現在住んでいる小学校区や中央区について、誇りに思えることは何ですか。（三つ以内）

- 1 熊本城
- 2 熊本市の中心
- 3 歴史と文化が豊か

3) 改善すべきこと

あなたが現在住んでいる小学校区や中央区について、改善すべきと考えることは何ですか。（三つ以内）

- 1 交通網
- 2 自転車
- 3 まちづくり



4 有識者インタビュー

- 実施時期 平成24年7月30日～9月7日
- 調査対象 企業、大学、マスメディア、医療機関、文化関係者等
- 調査件数 23件
- 調査方法 訪問による聞き取り

中央区の役割

- ❖ 市全体の核として他区を引っ張る中心的な役割。(文化団体代表者・大学教授・新聞記者)
- ❖ 県・市の中央であり、ここから情報発信する役割。(企業)
- ❖ 集約性を活かして、先駆けた取り組みや社会実験的なことにもチャレンジすべき。(企業経営者・公共施設長)

区の魅力

- ❖ 区の魅力は城下町であり、都会、自然、歴史が融合するまち。(雑誌編集者)
- ❖ 文化が一極集中し、いろんなジャンルの人たちと繋がりやすいこと。(大学教授、商店経営者)
- ❖ 古くからの文化を守っており、「ワサモン」気質が一番残った地域。(大学教授)
- ❖ 生活の利便性、治安がよく、住みやすい。(新聞記者)

区の課題

- ❖ 商業の集積と居住のバランスが大事。昼夜間人口の差をできる限り減らす方策を。(企業経営者)
- ❖ 今後の人口減少を想定し、まちなか居住、コンパクトシティの取り組みを。(大学教授・企業経営者)
- ❖ インフラを含めた「連携」が必要。県・市、企業、市民の連携。(公共施設長)
- ❖ 白川や立田山のすばらしい自然をもっと活用すべき。(雑誌編集者)
- ❖ 白川の防災は重要。川が存在を忘れないという意味で、市民が日ごろから川に親しむことが必要。(報道製作者)

中心市街地

- ❖ 店舗の流出などで吸引力が低下。魅力づくりが必要。(企業経営者・開業医)
- ❖ 街に人が住んでいることが重要。(商店経営者・大学教授)
- ❖ テナントが多くなって、個性や活力が失われつつあり、危機感がある。(商店経営者)
- ❖ 桜町・花畑再開発が重要であり、お城を中心としたまちづくりを官民連動して進める。(企業経営者・文化団体代表者)

観光

- ❖ それぞれのまちおこしを連携させるストーリーを作って、一緒に発信することが必要。(雑誌編集者)
- ❖ 住民自らがまちの歴史的なものを知り、観光案内人になるような「歩くしかけ」が必要。(雑誌編集者・企業経営者)



- ❖ お城から下通り、上通りへの回遊性をつくる必要がある。(大学教授・企業経営者)
- ❖ 水前寺公園を賑やかにしないと、熊本の観光が流れない。(文化団体代表者)
- ❖ 地下水都市として、水前寺・江津湖を活かしきる。坪井川の利用。(新聞記者・文化団体代表者)

まちづくり・まちおこし

- ❖ 区民の一体感の醸成がまず必要。そのためにはお互いを知ることから。(雑誌編集者・大学教授・市議)
- ❖ 市民が昔からのまちづくりの文化に触れ、育てる。新町・古町・河原町などの例。(大学教授)
- ❖ 各校区が一生懸命取り組んでいる。各校区の連携を。(企業)
- ❖ まちづくりが熱心なところは、人が面白く、みんな情熱的で自分の住んでいる所が好き。(雑誌編集者)
- ❖ 若い世代のネットワーク力を使って、地域のファンづくりを。(新聞記者)
- ❖ 大学・高校の学校間の連携、行政との連携が必要。(学生グループ・ボランティア団体長)

地域コミュニティ

- ❖ かつてのコミュニティが崩壊。再度、都市機能を持ったコミュニティづくりを。(企業経営者)
- ❖ 熊本は外から入りにくい面があり、新旧住民を取り持つファシリテーターが必要。(大学教授)
- ❖ 挨拶しあう地域づくりは、リスク管理上も重要。きちんとしたところには悪は入ってこない。(企業経営者)
- ❖ 生活スタイルの多様化に対応したコミュニティづくりが必要。(新聞記者)
- ❖ 高齢者の一人暮らし対策。白川の防災。子どもや高齢者の安全対策としてのICTの活用。(新聞記者、大学教授、防犯団体、報道制作者)

文化

- ❖ 様々なジャンルの芸術・音楽の団体があるが、連携不足で発信力がない。つなぐ人が必要。(大学教授)
- ❖ 区の魅力を今の切り口で再編集できる実力のあるクリエイター(人材)が豊富。(商店経営者)
- ❖ 自然発生的なまちなかの若者文化が均質化されて、面白みが薄れた。(商店経営者・企業経営者)
- ❖ まちの日常風景の中に現代の感性が効いたアートシーン(表現活動)があることが都市のキャラクター。(文化団体代表者)
- ❖ 表現には国際性が必要。文化で他国ときちんと付き合うことが重要。(文化団体代表者)



5 地域懇話会

- 実施時期 平成24年9月25日～30日（6回）
- 実施概要 「振興ビジョン骨格案」についてワークショップによる意見交換
- 参加人数 延べ244人

まちづくりの方向性1（誇りをもてる「品格」のあるまちをつくる）

- ❖ 熊本市の魅力、宝を市内外に発信する。（フェイスブック等も活用して）
- ❖ 校区の散歩マップや歴史マップを作る。
- ❖ 歴史、文化等をつないで中央区の物語を作る。
- ❖ 江津湖や白川、立田山等の自然に親しむイベント（ウォーキング等）の開催。
- ❖ 公園や道路に花を植え、区全体を花いっぱいにする。
- ❖ 地域の文化・人物や、昔の町名・字名の由来・情報を集める。
- ❖ 各校区から熊本城へ散策を兼ねたハイキングの実施。
- ❖ 中央区歴史検定試験を実施する。
- ❖ おもてなしの心で温かく観光客を迎える。
- ❖ 道を聞かれたときに親切丁寧に教える。
- ❖ 学生がボランティアに参加しやすい仕組みづくり。
- ❖ 通勤通学者には中央区を地元と言う意識を持ってほしい。
- ❖ 町をきれいにゴミ拾い活動。
- ❖ 音楽を通じたコミュニケーション。
- ❖ 熊本城は日本一の名城という意識を持つことが大事。
- ❖ 中央区のまちづくりに適した人材の発掘。
- ❖ 笑顔で挨拶をし、心地よい地域にする。
- ❖ 古い町並みの復元・再生。
- ❖ 地域資源のデータベース化。

まちづくりの方向性2（夢があふれる活力と賑わいのあるまちをつくる）

- ❖ 県外からの観光客へ散策コースをアピールする。
- ❖ 校区のホームページの開設により、校区間をネットでつなげる。
- ❖ 子どもからお年寄りまで一緒にできる地域の農園を作る。
- ❖ 地産地消の朝市を実施する。
- ❖ 市電の電停に写真でスポットを設置する。
- ❖ 花火大会を復活させる。
- ❖ 第2のバスターミナルを設置する。
- ❖ 公民館活動に若者や外国人を講師で招く。
- ❖ 城彩苑から中心商店街への回遊路を提案し、回遊性を高める。



まちづくりの方向性 3 (安全で安心して暮らせるまちをつくる)

- ❖ 中心部でドーナツ化現象が起きているが、本来は人が住むことで安全安心と言えるので、以前のように人が住む街になってほしい。
- ❖ 江津湖周辺の美化、ゴミだしルールの遵守。
- ❖ 高齢者のゴミ出しを小学生と協力隊を作って支援する。
- ❖ 外国人の居住者とコミュニケーションをとり、ゴミ出し等のルールを教える。
- ❖ 自主防災クラブの設立、参加、周知。
- ❖ マンションに住んでいる人たちを様々な活動に引き込み、コミュニケーションを図る。
- ❖ 区役所がもっと身近に感じられるようになり、安全安心を推進してほしい。
- ❖ 中学校区になると複数の小学校区になるので、小学校区を越えた情報交換も必要がある。
- ❖ 歩きタバコをさせない。
- ❖ 災害時に老人の単身世帯等がわからないので、情報開示をしてほしい。

まちづくりの方向性 4 (いきいきと健やかに暮らせるまちをつくる)

- ❖ 特定健診等をもっとPRし、受診を広く呼びかける。
- ❖ 年齢、世代を超えてみんなが集える場所をつくる。
- ❖ 地域が動ける予算をつけてほしい。
- ❖ 子どもたちが遊べる公園がほしい。
- ❖ 区をあげて”毎日15分歩きましょう”キャンペーンをする。
- ❖ 高齢者の知恵を、子どもたちに伝える場をつくる。
- ❖ ウォーキングロードの設置。
- ❖ 健康のまちづくりとして健康にぎわい祭りと商店街の祭りを同時に開催したらどうか。
- ❖ 校区の運動会を校区を越えて拡大していけたらいいと思う。
- ❖ 障がい者の就労支援。

※まちづくりの方向性 1～4については、9月時点のもの。



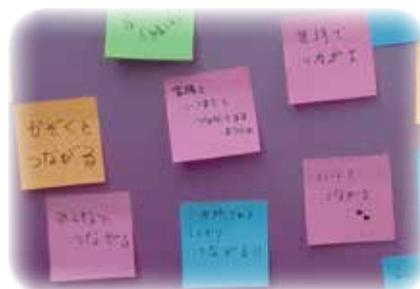


6 「こんなまちがいいな 未来の中央区」 絵画コンクール

- 実施時期 平成24年7月10日～9月12日
- 実施概要 中央区内の小中学生に対し、中央区が将来こんなまちになったらいいな、という夢のまちをテーマとした絵画を募集
- 応募数 202作品 入賞15作品 うち中央区賞3作品

7 オープンハウス

- 実施時期 平成24年10月7日（城下町大にぎわい市と同時開催）
- 実施概要 振興ビジョンパネル説明及びメッセージボードに「つながる」をテーマにメッセージを貼ってもらう。



8 リレーシンポジウム in 中央区

- 実施時期 平成24年10月21日
- 実施概要 絵画コンクール表彰式
振興ビジョン説明
パネルディスカッション
- 参加人数 約130人



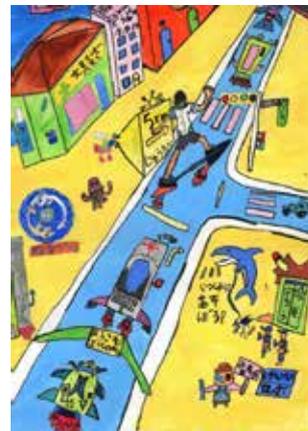
- コーディネーター 上野真也（熊本大学教授）
- パネリスト
鳥崎 一郎（大江校区社会福祉協議会会長）
長崎 健一（長崎書店代表取締役社長）
前湊 啓子（熊本市中央区長）

資料編 2

●統計資料



帯山中3年 松田 祐佳さん



白山小5年 成尾 滉基さん



白山小6年 桐原 里旺さん



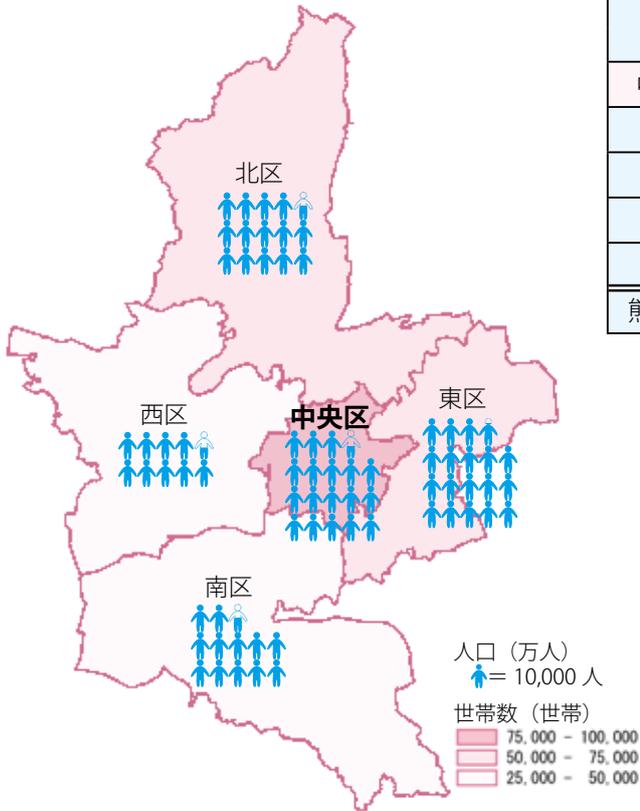
帯山小3年 杉川 愛美さん



白川小5年 花畑 侑佳さん

「こんなまちがいいな 未来の中央区」絵画コンクール 入賞作品

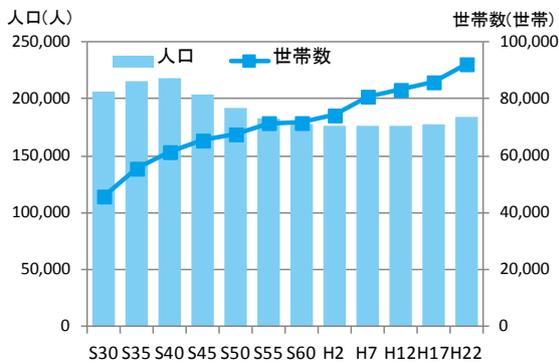
●統計資料



1. 熊本市の人口、世帯数、面積、人口密度

| | 人口 (人) | 世帯数 (世帯) | 面積 (km ²) | 人口密度 (人/km ²) |
|-----|---------|----------|-----------------------|---------------------------|
| 中央区 | 184,353 | 92,242 | 25.95 | 7,389 |
| 東区 | 188,082 | 74,942 | 50.42 | 3,730 |
| 西区 | 93,805 | 37,610 | 89.06 | 1,053 |
| 南区 | 122,600 | 43,499 | 109.76 | 1,117 |
| 北区 | 145,634 | 54,120 | 115.35 | 1,263 |
| 熊本市 | 734,474 | 302,413 | 389.54 | 1,885 |

出典：平成 22 年国勢調査 (面積は、熊本市統計課)

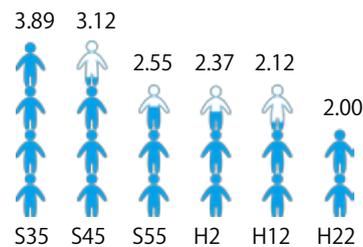


3. 中央区の人口と世帯数の推移

出典：国勢調査

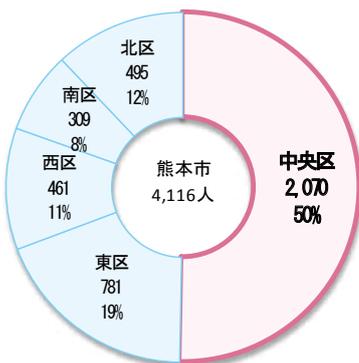
2. 中央区の校区別人口密度

出典：平成 22 年国勢調査、熊本市統計課



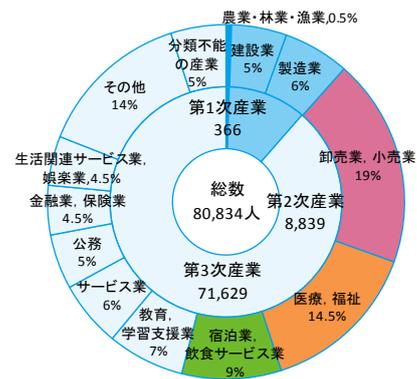
4. 中央区の世帯人員の推移

出典：国勢調査



5. 外国人数

出典：住民基本台帳登録者数 (平成 25 年 2 月 28 日)



6. 中央区の産業別 15 歳以上就業者数

出典：平成 22 年国勢調査

◆ H7～12年



◆ H12～17年



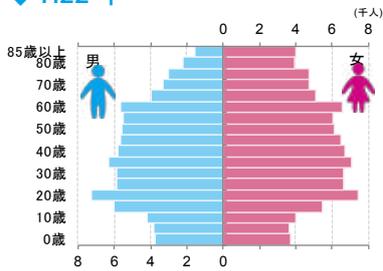
◆ H17～22年



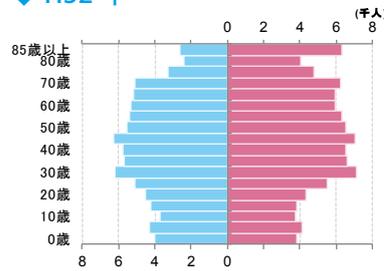
7. 中央区の校区別人口増減率

出典：国勢調査

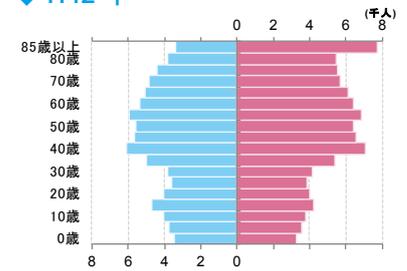
◆ H22年



◆ H32年

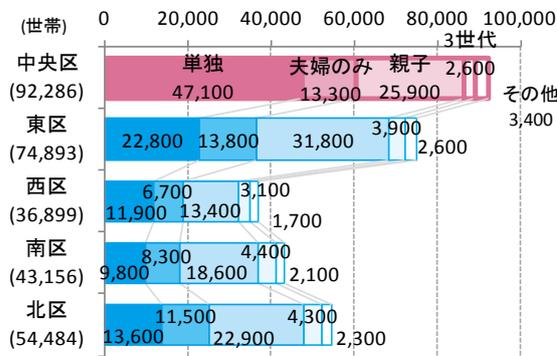


◆ H42年



8. 中央区の人口ピラミッド

出典：平成22年国勢調査、平成32年以降は熊本市中央区推計



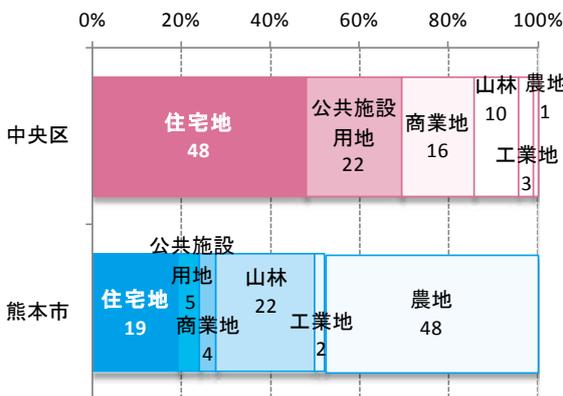
9. 世帯の家族類型別一般世帯数

出典：平成22年国勢調査



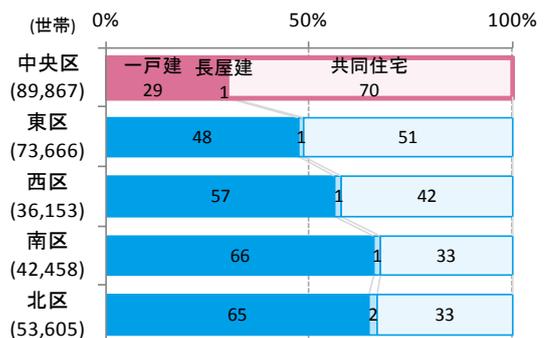
10. 中央区の世帯の家族類型別一般世帯数の推移

出典：国勢調査



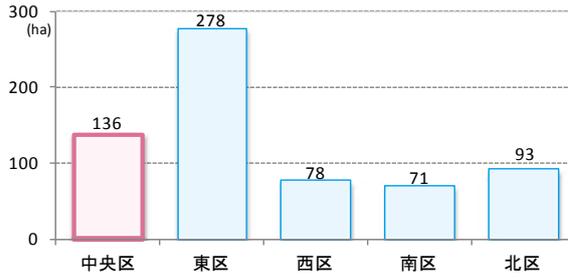
11. 中央区の土地利用状況

出典：平成18年度都市計画基礎調査



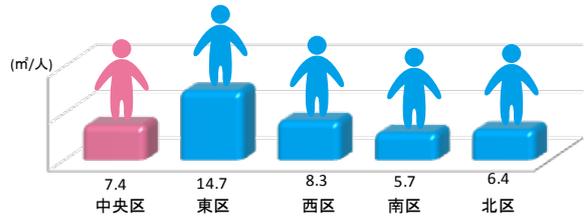
12. 住宅の建て方別住宅に住む主世帯数

出典：平成22年国勢調査



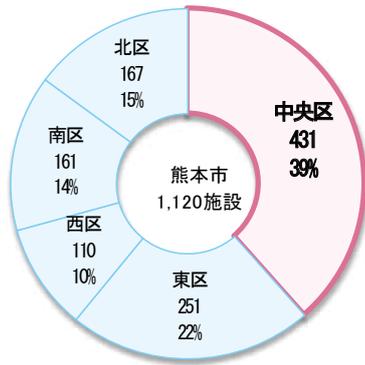
13. 公園・緑地面積

出典：熊本市河川公園課資料（平成24年4月1日）



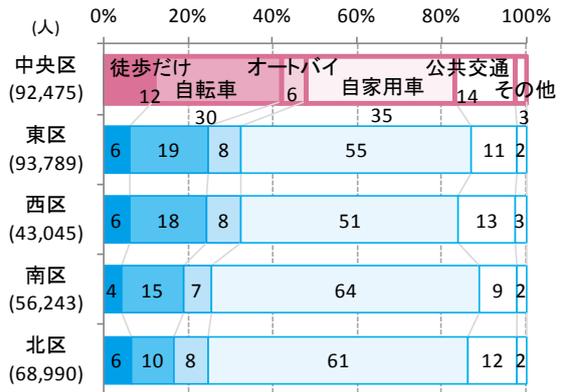
14. 一人あたり公園・緑地面積

出典：熊本市河川公園課資料（平成24年4月1日）



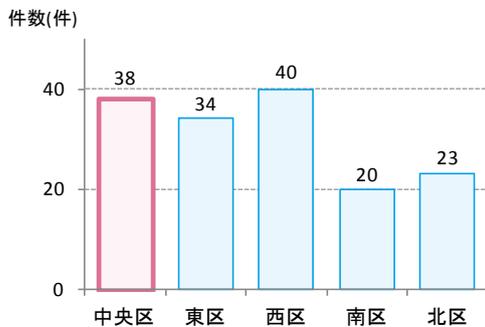
15. 病院・診療所数と割合

出典：熊本市医療政策課資料（平成24年4月1日）



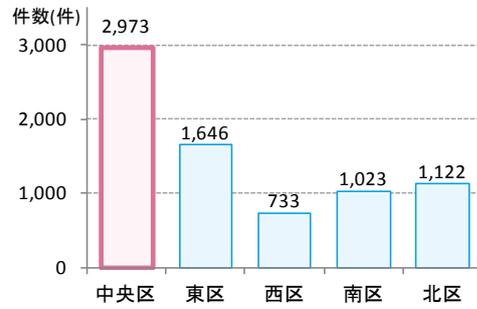
16. 通勤・通学の利用交通手段

出典：平成22年国勢調査



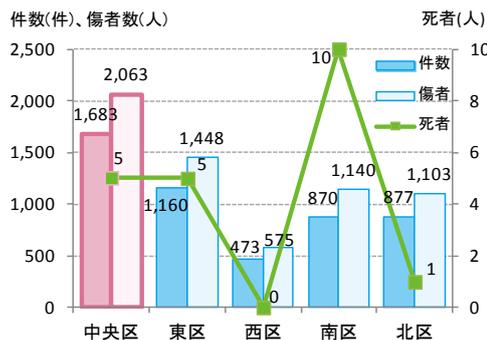
17. 火災発生件数

出典：熊本市消防局資料（平成24年）



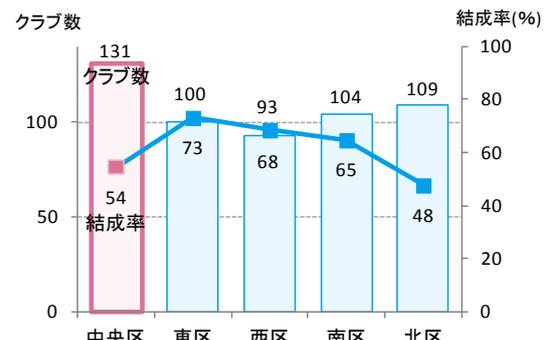
18. 刑法犯認知件数

出典：熊本県警察資料（平成23年）



19. 交通事故発生状況

出典：熊本県警察資料（平成23年）



20. 自主防災クラブ結成状況

出典：熊本市危機管理防災総室資料（平成25年2月1日）

※結成率は自治会ベースで算出



発行者：熊本市中央区役所総務企画課
TEL：096-328-2610 FAX：096-355-4190
〒860-8618 熊本市中央区手取本町1番1号
E-mail：chuosoumukikaku@city.kumamoto.lg.jp